### 素晴らしき須走を知りたい!

# 「すばらしい隊」養成講座 第5回講座概要

### 第1部:東口本宮冨士浅間神社を学ぶ

## 座学「神社の基礎知識」

■日時: 平成 30 年 11 月 17 日 (土) 9 時 30 分~10 時 30 分

■場所:東口本宮冨士浅間神社 社務所

■講師:石橋 良弘 東口本宮冨士浅間神社 禰宜





- ■巡拝の道とは何か概要説明
- ■第1回・第2回・第3回・第4回講座概要の振りかえり
- ■巡拝の道映像:「神社を支える人々」
- ■講義概要

#### 1. 神社の基礎知識

- 一神社と寺の違いとは、神社は神様、寺は仏様をお祀りしている。
- -通常色のついた袴をはいており、神主は職業の名前である。神社の役職は、宮司=社長で神社の一切 を取り仕切る人。禰宜=部長で社長を補佐する人。権禰宜=一般社員で、宮司、禰宜を補佐する人。
- 浅間神社とは、富士山の噴火を鎮めるための神社。富士山本宮浅間大社を総本宮とし、富士山が見える静岡、山梨を中心に関東平野にあり、全国で約1300社が鎮座している。例外として、北海道に静岡から移り住んだ人が故郷を忍んで浅間神社と付けた所もある。
- -主な浅間神社は、富士山本宮浅間大社(富士宮市)、北口本宮冨士浅間神社(富士吉田市)、須山浅間神社(裾野市須山)がある。浅間大社は、総本部で、富士山8合目以上は浅間大社の土地である。頂上奥宮、久須志神社の2社も管理している。北口本宮冨士浅間神社は、富士吉田口の起点となる神社。須山浅間神社は、旧須山口の起点となる神社。どの浅間神社も「コノハナサクヤヒメ」を祀っている。漢字が異なり、浅間大社は「木花之佐久夜毘売命」。北口本宮は「木花開耶姫命」。須山は「木花咲耶毘売命」。東口は「木花咲耶姫命」。それと「大己貴命(オオナムチノミコト)」と「彦火火出見命(ヒコホボデミノミコト)」
- -神社の頂点は、伊勢神宮である。125 社から成り立ち、主なのが内宮、外宮。内宮は皇室の先祖神に

当たり、日本の八百万神の中での最高神・天照大神をお祀りする。

- -神社には系統があり、宇佐八幡宮を総本宮とする八幡宮は全国に4万社ほどあり、武道の神様である。 伏見稲荷神社を総本宮とする稲荷神社は全国で3万5千社ほどあり、商売繁盛の神様。諏訪大社を総 本宮とする諏訪神社は、全国で2万5千社ほど。住吉大社を総本宮とする住吉神社は全国で2300社 ほど、海の神様、船出の神様である。
- 一神社を歩くときの作法。参道は左側通行で、真ん中は神様の通り道なので歩かない。鳥居や神門をく ぐるときは軽く会釈をするのが作法。神殿に上がる時は、つま先を神様に向けたままで、お尻を向け ない。社殿から下りる時に履きながら神様に向かって挨拶をする。
- 一手水の作法。お参りする時に身を清めるために手を洗う。右手で柄杓を持ち、出ているきれいな水を 柄杓にいっぱい溜める。左手をちょっと流す。左手に持ち替え、右手を流す。持ち替えて左手に水を 溜め、口をすすぐ。左手を洗い、柄杓を立てて柄杓を洗う。手水は禊で身を清めることの簡略版。
- ーお参りの作法。神様の正面に立ち、一礼。鈴を鳴らし、神様に呼び鈴。御賽銭で気持ちをお供えする。 二礼二拍手一礼。
- 玉串の作法。焼香の代わり。榊などその土地で栄えている木を使う。お宮参りや厄払いなどお願い事をする人が自分の思いを乗せて奉奠(ほんてん)するもの。
- -お札の祀り方。氏神様とは、自分が住む土地の神様。明治時代、一村一社という方針があった。一つの村に一つの神社。須走村の氏神様が浅間神社。例えば、御殿場市仁杉には仁杉がある。皆、神様のご加護を持って生まれてきたので、地元の神様、町の神様を大切にしてほしい。
- 一神棚は神様に家にいていただき、お守りいただく。全国8万余の頂点、一番尊い神社である伊勢神宮のお札+地域の神社+崇敬神社(好きな神社)の3つのお札をお祀りする。伊勢神宮の札は、どこの神社でも、人がいる神社であれば、頂ける。
- 一神社神道=神道で宗教の一派である。茶道・華道と同じように自分自身を律して高めるもの。キリスト教やイスラム教など他宗教は教典があるが神道にはない。古事記や日本書紀は歴史書であり、教典ではない。人から教えてもらい、人に教えるものがキリスト教やイスラム教。神道は日本古来から、人生儀礼をすることが多い。子供を授かったら「安産祈願」、生まれたら「お宮参り」、成長を報告するのが「七五三」。地域によっては「十三参り」。成人関係、神前結婚式、最後にはお葬式。それ以外には須走護国神社や靖国神社など亡くなった人をお祀りしている神社がある。
- ー寺と神社の違いはない。昔は一緒だった。日本古来の成長儀礼があり、神社、寺どちらでするのかは みなさん次第である。
- -神社の「二礼二拍手一礼」「例大祭、新嘗祭」などは明治時代に全国的に統一された。明治維新の時に神道を中心に国を盛り上げようとした。この時代、神社は国の管理下で、宮司は公務員扱い。以前は世襲だったが、戦後は役場の方が来て宮司をした。戦後直後まで神社は国の管理下にあった。
- ー神社神道の中心は、
  - ①自然崇拝:山、海、川、風、太陽、月に対して畏れ有難さを感じるもの。浅間神社は富士山信仰。 ②祖先崇拝:ご先祖へのお墓参り。靖国神社、護国神社等、亡くなった人が守り神になるという考え 方は世界的に珍しい。亡くなった人を大切にするのも神社の特色の一つである。須走の伊奈神社は富 士山宝永噴火の時、町を再建した偉人をお祀りしている。
- ③成長儀礼:安産、お宮参り、七五三、厄払いなど。お葬式は神社ではあまり行われない。神社は聖域なので、死んでしまった人を境内に入れるのは良くないということである。

#### 2. 冨士浅間神社について

- -西暦 802 年に富士山の東側が噴火し、鎮火の神事を行った場所が現在のご本殿がある場所と言われている。町の復興に5年を要した。807年、改めて最初の祠か社を建てたことが須走浅間神社の出発点だと伝わっている。
- 須走神社は戦国の頃 1500 年代の文献に出てくる。須走口登山道はそれより前の年代のものが発掘されているので、昔からあったと考えられている。
- 江戸時代、弘法寺浅間宮と呼ばれた時代があった。弘法大師が富士山周辺で修行した場所にあやかってそう言われた。
- 須走は、登山道が最初にあったのではなく、富士山を鎮める神社があり、それを支える町ができた。 町は町で東海道と中山道を結ぶ道 (=鎌倉往還) にあった宿場町のひとつ。そして駿河国と甲斐国 の境に位置し、一大物流拠点であった。富士山が登れるようになって須走口の起点になったのでは ないかと考える。登山道の起点として神社や宿場町があるのが特徴。
- この神社を語るうえで重要なことが宝永の噴火である。須走の町は、3~4mの灰が積もり埋まってしまった。交通の要衝であったため、町の復興が進められた。江戸幕府から手厚い保護を受けた。灰に埋まった町の上に町を作るのが早い復興になるので、須走の町は掘れば何かしら出てくる。だが、神社には神様がいる。神様は唯一無二の存在なので、境内に積もった灰をどかして神社を復旧し、元の形に戻すという形を取った。神社の参道を通るとご本殿の左側、裏側が高台になっている。その時に灰をはらった時の名残として、境内が変わった形になっている。
- 一神社には石碑、石燈篭がたくさん並んでいるが、鳥居のすぐ後ろにある猿が掘られている灯篭が宝永 の噴火の前の年代の灯篭。灰を掘った状態なので存在するもの。

#### 3. 富士山に関する神社

- ー神社須走口(昔:東口)の出発点であることから東口本宮浅間神社と呼ばれている。
- 道中に小さな神社やお堂などがたくさんあったが、今は損なわれている。
- 一境外末社(神社の土地以外の関係する神社)は、野中神社、古御嶽神社・御室浅間神社・雲切神社、胎内神社、迎久須志神社がある。古御嶽神社は須走口5合目、胎内神社は6合目、迎久須志神社は9合目にあり、今もこの神社で管理をしている。お祀りする時は、遥拝という形でお祀りしている。一つの神社が登山道全部の神社をお祀りしているのは珍しい。山梨の吉田口では、麓に北口の浅間神社、5合目に古御嶽神社、2合目に御室浅間神社があるが、全部違う神主さん、違う宮司さんで、全部違う神社となる。
- 富士山は静岡、山梨どちらのもの?基本的には富士山8合目以上は浅間大社の境内地になる。須走口は8合目で吉田口と合流する。頂上に行く途中の9合目も須走の神社で管理している。富士山は静岡県の人しか出入りしていないので、静岡県のものではないかと思う。

#### 4. その他

- 一御朱印はお寺で始まったものと言われている。その神社やお寺を参拝した証で記帳してもらうもの。 スタンプラリーのようにお参りをしないで帰る人がいる。お参りをして、御朱印を記帳するのが大切な順番である。
- -神拝詞:神前で神様に説明するためのものが書いてある。大祓詞は一般にして最高の祝詞。内容は神様方が神話の中の話をしている祝詞。神様がどうやって一致団結しようか、という話。団結するためには罪穢れ、悪いものをどんどん祓っていかなければならない。祓うことによって自分自身を清めることになるという事が書いてある。12月31日の師走大祓い、6月30日水無

月大祓い、半年に一回自分自身、身を清めるために大祓詞を奏上する。例えば、来年 5 月 1 日天皇陛下がご即位する時に全国の神主さんは大祓いの儀式を行い、御代替わりのお祀りをする。それだけ重要な祝詞になる。心の中で詠んでも構わない。

- 祓詞:お祓いをするための祝詞。神主が覚える基本の祝詞。略祓詞:お参りする時に唱える。お寺で言う南無妙法蓮華経、南無阿弥陀仏に相当する。神社拝詞:神社の前で丁重に自分の気持ちを伝えたい時に唱える。神棚拝詞:自分の家の神棚に対してあげる祝詞。祖霊拝詞:ご先祖様に対して、お墓や仏壇に対してあげる祝詞。宍野管長があげた祝詞は、神道系の祝詞

#### 5. 質疑応答

- Q. 仏壇はあるが、神棚がない。お札をどのように祀ればいいのか?
- A. 理想的なのは神棚を購入しお祀りする。お札の書いてある面が、太陽が上がってくる東、もしくは太陽が一番高くなる南に向くように、そして自分の目線より高い位置にお祀りするのが理想的。リビングか床の間が良いが、一番人が出入りする所で神様のご加護を頂くもの。本棚の上やタンスの上でも良いが、白い敷物をしてその上でお祀りする。お米・お水を入れる器も備えると丁寧である。いずれにしてもぞんざいに扱わないというのが一番大切な事である。
- Q. お札は重ねても良いのか
- A. 神棚の種類によっては重ねなければならないこともある。一つしか入らないように見える神棚は重ねることを前提に作られている。一番手前に伊勢神宮、その次に地元の神様、そのあとは他の神様。手前から尊い神宮をお祀りする。重ねること自体は構わない。
- Q. お札を変えるタイミングは?
- A. 一般的にお正月。新年を迎える前の年末。古くなったものは初詣での時にお焚き上げに出す。その他、 御祈祷でお札をもらった時が6月だった場合は、もらった時から1年は置く。1年経ってその年末に 出す。1年は神様のご加護しっかりもらってもらいたい。
- Q. 今年の12月31日の大祓式は何時から?
- A. 12 月 31 日 16 時~神門の前で行う。どなたでも参列できる。夜中には年越しの瞬間には、甘酒と年越しそばのお振る舞いがある。年越しの瞬間を神社で味わってみてはいかがでしょう?

### 第2部:体験編「神社の見どころを学ぼう!」

■日時:平成30年11月17日(土)10時40分~11時40分

■場所:東口本宮冨士浅間神社

■講師:山本 章子 静岡おやま案内人 四季の旅人 会長

- この資料館は、平成 19 年(2017 年)浅間神社復興 1200 年を記念して作られた。
- -テーマは「富士山、富士講と宝永噴火」。
- 富士講 伊豆、駿河、遠江、甲斐、信濃、相模、武蔵、 上総、信濃、阿波、常陸、上野、下野の国から。一番遠 いのは栃木県から。
- -富士講の講元からの薬師如来、阿弥陀如来、大日如来が 飾られている。御身抜、角行様が加持祈祷したものも飾 られている。
- お札も飾られている。江戸に疫病が流行った時には数万枚も配られて疫病が退散したとの記録が残っている
- -長谷川角行、村上光清、食行身禄など富士講の教えと広 まり
- -お鉢巡り、富士塚について
- 武田信玄が須走・駿河の国を治めた頃の名残。ご朱印
- 宝永噴火の被害、伊奈半左衛門について
- -参道大鳥居 春日鳥居で「不二山」と刻まれている。二 つとない山ということ。冨士浅間神社の「冨」のワかん むりは、神社の上には何もないという意味が込められて いる。万葉集では「不尽山」尽くしきれない美しさ、荘 厳さという意味があると思う。「不死山」不老長寿のシンボルとも言われている。







- ーエゾヤマザクラ。ヤマザクラの北方型でここが南限。珍しい木。樹勢が衰えた時、木道にして根元に 酸素が行くようにした。
- 庚申燈。元禄5年に建てられた一番古いもの。325年前。埋まってしまったものを掘り起こしたもの。
- 富士山が出現したのが庚申の年。この年に登ると一度 で33回登ったご利益があるとされている。
- ─「見ざる 言わざる 聞かざる」が彫られている。



- 一神社のご祭神は「木花咲耶姫命」。「ニニギノミコト」が人目惚れして妻とし、一夜の懐妊に疑いを 抱いた。姫はこの疑いを晴らすために出口のない産室を作り、燃え盛る火の中で三柱の御子をお生 みになった。このことから、鎮火の神、縁結び、子授け、安産、子育ての守護神として信仰を集め ている。
- 富士塚 富士山信仰に基づき、富士山に模して造営されたもの。麻布の山三元講が寄贈されたもの
- -楼門 二階建ての隋神門で、櫛岩窓神(北側)、豊岩窓神(南側)が随身として配信されている。ここが結界。ここから先、悪霊が入らないように門番のような役目。
- -神輿庫。昭和50年に建てられる。5月5日の例大祭の際に出される。
- -昭和9年、日本で初めて探鳥会が行われたのが浅間神社。 中西悟堂さんが行った。
- -参加者は、金田一京助、春彦、柳田邦夫、北原白秋など。



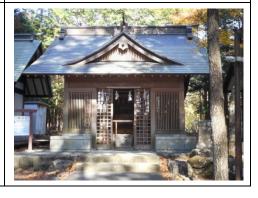
一神馬舎。神馬とは、祈願のために神社に奉納された馬。 昔は生きている馬を献納していたが、世話が重荷になる 事、高価なので奉納する側も大きな負担になることから 今は絵馬に変わりつつある。



-ハルニレ。昭和38年に県の天然記念物に指定された。



-境内社。社殿は富士紡績株式会社小山工場の鎮守として御分霊をお祀りされていたが、昭和33年に寄進された。



- 手水舎。先ほど禰宜の石橋さん から習ったことを復習。
- -参拝の作法。「二礼二拍手一礼」 を実践。





- 社殿は本殿・幣殿・拝殿が連結した権現造。奥が本殿。 神様が降臨するところ。幣殿は真ん中の低い所、本殿と 拝殿をつなぐところ。拝殿は皆が入れるところ。
- -1200 年祭にかけて修復作業に 4 億円以上かけた。漆塗り に 3 億 10 万円かけた。日本の漆は 30 数回塗るそう。



- ー神社には富士講講碑が70基以上ある。
- 平成3年に小山町の天然記念物に指定された根上がりモミ。
- -150 年生のモミの根元にブナ、イヌシデの種子が生え、宝 永噴火の火山灰土が降雨によって流亡しながら成長した ため根が爪を立てた状態で生育し、根上がりになった。



- -鎌倉往還。幕府所在地である鎌倉から放射状にあった複数のルートの1つ。御家人などが鎌倉と自領との往還に利用した道。沼津からの塩の道としても使われた。相模から駿河、甲斐への連絡路だった。
- -護国神社。西南戦争から太平洋戦争に至る間の 68 年間、須走の 24 名の方が戦争で亡くなられた。その方々をこちらでお祀りしている。
- -信しげの滝。なぜ「信しげ」という名前が付いたか分からないそうだ。この水は、道路ができる時にここで水が出た為、ひいたもの。

